

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100588		
法人名	社会福祉法人 明翠会		
事業所名	グループホームなのはな苑ねむのき		
所在地	岡崎市合歓木町字上郷間337-1		
自己評価作成日	令和6年2月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2392100588-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護方針「一期一会を大切に」をもとに7点に重点をおき一人ひとりに合わせた個別ケア(その人らしい暮らし)が実現できるよう支援させて頂いている。1.入居者様とご家族様、職員の出会いを大切にする 2.「過去」でもなく「未来」でもなく「今」を大切に生きる 3.当たり前にある感情にありのままに向き合い「心」に寄り添う 4.安心して暮らし“喜”“楽”あふれる温かな場所作りを提供する 5.日常生活では小さな幸せを、四季折々の行事や外出企画で大きな幸せを感じていただく 6.楽しいことや嬉しいことは何倍にも、悲しいこと心配ごととは半分に 7.一度きりの人生をその人らしく生きていただく
木造平屋建てで、木の温もりを感じながら生活する中で筋書きのないドラマが日々生まれています。施設内での生活に限らず、地域社会の一員として、地域の方々との交流を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※コロナ感染防止のため、1名訪問、エントランスへの立入りのみとした。
コロナ感染症の5類移行以後も感染への警戒を緩めておらず、地域交流や外出支援、家族面会等は制限を設けている。一方で、利用者が閉塞感を感じることはないよう、ホーム内での支援を充実させ、管理者、職員が知恵を絞って利用者の平穏な生活を支えている。
理念の一節にある「われら人間家族」の言葉通り、家族もまた職員とともに利用者を支える運命共同体の一員として位置付けている。管理者をはじめ職員それぞれが、家族に対しても丁寧に接しており、家族アンケートには、職員の適切な支援や対応を称賛する声があふれていた。家族に鑑賞してもらうためのスライドが、管理者の手でこつこつと作成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示すると共に、ユニット会議やスタッフ会議等では理念に基づいたケアを実施するように検討している。	法人共通の理念「ともに暮らし ともに生きる 我ら人間家族」がホーム入り口に掲示してある。その意味を理解した職員によって、利用者に寄り添った家族的な支援が実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になり、地域との関りが希薄になっている。 風除室に写真を掲示し、来苑者に施設の様子が伝わるようにしている。今年度は駐車場で地域の獅子舞いとの交流あり。	以前は、地域の小・中学校の学芸会の予行演習や文化祭の見物に出かけていた。法人の方針もあり、地域交流の再開の目途は立っていない。しかし、秋祭りには獅子舞が駐車場まで来て、利用者を楽しませた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	むつみ地域包括支援センターに相談に来られた方で認知症の家族を抱えている方に対して施設見学や相談を行っている。 運営推進会議にて利用状況などの説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議が開催出来ていなかったが、4月から対面とオンラインを活用し開催することが出来た。行事の写真や事故・ヒヤリハットの報告に写真を添付し、状況が分かるように工夫をしている。	偶数月に運営推進会議を開催し、コロナ感染症の5類移行後はすべて対面の通常開催である。隣接の地域密着型特養や小規模多機能事業所と同日開催であるが、時間を分割して個別に行っている。	運営推進会議の目的の一つである「目標達成計画の進捗評価」を行い、議事録に残されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば、その都度電話連絡もしくは市役所に出向いて確認、相談している。	市からの情報提供は、ほとんどメールで配信されて来る。ホームからもメールや電話で対応している。市のグループホーム小部会は2ヶ月ごとの開催であり、15前後のホームが顔を出す。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人のリスクマネジメント委員会で検討検討や勉強会を実施している。	毎月法人のリスクマネジメント委員会が開催され、管理者が出席している。不適切な支援が社会問題となっており、それらの報道があるたびに事例検討の勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「権利擁護・身体拘束・虐待」についてウェブ研修は施設内研修を実施している。 新聞記事等で虐待や身体拘束、権利擁護の記事を見かけると申し送りノートの掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護・身体拘束・虐待」についてウェブ研修は施設内研修を実施している。新聞記事等で虐待や身体拘束、権利擁護の記事を見かけると申し送りノートの掲示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書を一項目ごて丁寧に説明させて頂き、入居されてからもその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様の意見が反映できるように、入居者様からは生活支援の中で意向を確認し、ご家族様からは来苑時に確認している。	15名の家族がアンケートに回答し、うち14名は自由記述欄に意見を寄せた。称賛の言葉とともに意見や要望等も含まれていた。職員との信頼関係が築かれており、「意見は取り上げてくれる」という期待感がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からのコミュニケーションに加え、個別面接において意見を伺うように心がけている。また、会議では意見・提案がし易い環境作りに努めている。職員満足度調査を実施し意見を反映している。※資料あり	毎年法人による職員満足度調査を実施し、法人から分析結果が届く。それを受け、職員意見を反映させたホーム運営を行っている。職員が楽しく働ける職場を目指しており、職員雇用は安定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個々のモチベーションが高くもって働けるよう職場環境づくりに努めている。定期的にリフレクション面接を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は事業所単位ではなく、法人全体の研修プログラムを作成、実施している。2023年10月からは外部研修してもらい、職員教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡崎市のグループホーム小部会に入会し情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接時に可能な限り多くの情報を頂き、ご本人様の不安や要望を明確にするようにしている。謙虚な姿勢で接し、安心してお話し頂ける雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること不安に思っていることを話して頂けるような雰囲気作りに心がけている。また、会話の中で共通事項(出身地・趣味・嗜好)を見つけ身近に感じて頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺う中で優先順位を整理し、今必要だと思うサービスを見極めるようにしている。 施設で賅えない部分は他のサービスを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の立場に立って考え行動し、入居者様と職員が良好な関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が施設に足を運んで頂ける環境を整え、面会時にはその都度施設の様子を伝えてご家族様の意見を伺うようにしている。ご家族様と施設が同じ方向を向いてケアが実施できるように常にコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限を余儀されているが、ロビーでの面会の実施と、2023年10月からはフロア内での入室が許可された。	友人知人の面会も、家族面会と同じ制限付きで認めている。かつて自分で管理していた畑に行くことを望む利用者がいる。真の目的は、畑を通して築いた人間関係の再構築(再会)である。	一度は、畑でかつての仲間と再会を果たした。今後も定期的な対面ができるよう、介護計画に取り上げて支援されたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格等を把握し、食事席やレクリエーション活動時の配置席などを孤立せず良好な関係が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方においても、必要に応じて支援を行っている。 退院後の相談など。 退去後、ご逝去されたとの連絡をくれる家族が多く、繋がりを感じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で各担当職員を中心に本人様の意見を傾聴し、把握に努めている。 月1回のカンファレンスを行い、情報共有している。	平均介護度は2.2であり、半数以上の利用者が、自らの思いを口頭で表出できる。「ビールが飲みたい」との希望を持つ利用者は、時折ノンアルコールビールで晩酌を楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から聞き取りを行い、今まで過ごしてきた環境や思いを把握するように努めている。入居時に馴染みの持って来てもらうように依頼し、仏壇を持って来ている方もいらっしゃる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定をはじめ、食事・入浴・排泄状況等、心身状態の把握を行っている。 変化時、タブレットで写真を共有するなどしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成にあたって、ご本人様・ご家族様・施設職員の意見を踏まえ、半年に1度介護計画の見直しを行い、ご本人様・ご家族様にとって満足のできる介護計画書となるように努めている。	短期6ヶ月、長期1年の目標を設定し、利用者の意向を叶える介護計画を作成している。 「畑で野菜を作りたい」利用者には、「畑作業」が介護計画に盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあればケース記録や申し送りノート、利用者ノートを活用し情報共有しケアの実践・改善に努めている。 タブレットで写真を撮り情報共有することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまった対応ではなく、その時々において最善の策を検討し、臨機応変に対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の活用が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様個々にかかりつけ医があり、基本的にご家族様が受診対応を行っている。受診の際、施設の様子が分かるように情報提供している。必要に応じて管理者と一緒に同行している。	ホーム協力医は心療内科が専門である。利用者のかかりつけ医は、利用契約前からの医療機関を継続して利用している。通院受診は、家族同行が基本ではあるが、管理者が付き添うケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護・看護が連携を密にとり入居者様が安心して生活ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、ご家族様とも定期的に連絡を取っている。 退院の目途ができてきたら病院と連携を取りスムーズな対応ができるようにしている。 病院によっては先生との話し合いに同席させてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の施設での対応について説明すると共に体調不良にはその都度話し合いを行う。 また、希望があれば特別養護老人ホームへの申し込み相談や説明を行っている。 実際に移動された方もいる。	重度化指針があり、ホームでの看取りをしないことを利用契約時に説明している。ホームでの生活が難しくなり、この1年間で隣接の特養(2名)や入院中の病院(1名)に移行するケースがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、統一した対応ができるように研修を行っている。 急変や事故発生時は必ず家族に報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。 119番の通報訓練を複数回実施し、経験を詰めるようにした。 年2回、設備機器の業者を招いて機器説明も受けている。	ホームの近くを一級河川が流れ、ハザードマップ上で洪水警戒地域である。昨年6月の大雨時には、隣接する特養の2階へ避難した。その際の経験を加味し、BCP(事業継続計画)の作成を急いでいる。	「避難決行」の報を家族にも流し、8家族が急行して利用者を自宅へ引き取った。地域に対しても、速やかな応援が得られるような仕組みづくりが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、その方の性格等も考慮し、誇りやプライバシーを損ねないように個々に応じた声掛けと対応を行っている。	利用者の尊厳を守り、呼称は「名前にさん付け」を基本途している。利用者と家族の強い要望があり、「ちゃん付け」で呼ぶ利用者がいるが、職員の利用者を敬う気持ちには変わらない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりに声掛けを行い、傾聴し本人様の意思を尊重出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の思いや希望を大切に、無理強いをせず、なるべく希望に添えるように心がけている。 食事提供も睡眠状況に合わせて遅らせて提供することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴等で衣類を準備する際はご自分で準備して頂けるように支援している。個々で化粧水を使われている方もいる。散髪は1ヶ月に2回、訪問理美容を実施。今年度はカラーリングもされた方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍になる前は定期的買い物に出かけ、食事の準備から配膳、下膳と出来ることは一緒に行っていた。 現在はイベント食やおやつ作り等に力を入れている。	ご飯のみホームで炊き、おかずと汁物は配食業者を利用している。ホームの畑で収穫した野菜を、食材として活用することもある。イベント食やおやつ作りには、利用者の手伝いがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて食事量・水分量を把握し支援している。 10時と15時のお茶の時間には好きな飲み物を伺い提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアが実施できるように声掛けを行い、支援が必要な方には介助している。 訪問歯科を利用し、定期的にメンテナンスされている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い、トイレ誘導を実施している。排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し支援している。	昼間は、すべての利用者がトイレで排泄している。夜間は睡眠を重視しており、ベッド上でのパッド交換やポータブルトイレの使用がある。適切な支援によって、失禁が減ってパッドを外せた利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嗜好を確認し、できるだけ多くの水分摂取を取って頂くようにしている。また、ご家族様に協力して頂き、ヨーグルトなどを食べてもらっている。体操や運動への参加を促し、腹部マッサージ等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今までは午後浴のみであったが、職員体制を整備し、午前浴も開始した。身体状況において別日に変更するなど臨機応変に対応している。	予定表を使い、週に2回の入浴を支援している。異性による介助を望まない利用者に対しては、勤務シフトに合わせて入浴日を変更して対応(同性介助)している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室対応になっており、自分の好きな時間に休んで頂くようにしている。日中の活動を充実させ、昼夜逆転が無く、夜間にしっかり寝て頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は事務所で管理し、薬のセットは看護師が実施。お薬手帳や薬情で確認できるようにしている。服薬時はスタッフ2名で確認し、確実に服用して頂くようにしている。症状の変化を観察し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握し、日常生活の中で役割を持ちながら生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2023年6月には三ヶ根山スカイラインへ紫陽花ドライブへ出かけることが出来た。2024年1月には初詣に出かけることが出来た。天気がいい日は施設周辺を散歩している。	法人の方針として、コロナ感染症の警戒を解いておらず、ドライブとホーム周辺への散歩が主要な外出支援となっている。それでも、お正月には近くの神社への初詣を果たした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様・ご家族様が希望された場合は居室にて現金を所持したり事務所で預かりしている。 自動販売機でジュースを買われる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話をかけたいと希望があった場合は施設の電話機をお貸ししている。手紙についても希望があれば対応する。年賀状を書いてご家族様に送っています。リモート面会も実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感が出るように季節花を飾ったり作品を作り掲示している。 毎日掃除を行い不快に感じないように清潔保持に努め、気持ちが和らぐような雰囲気作りを心掛けている。	コロナ及びインフルエンザへの感染防止の観点から、共用空間への立入りを自粛した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる場所に椅子を持って日向ぼっこしたり、ソファーに座りゆっくりTVを見たり、ユニット間の移動も自由にしており、個々の意思を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れたものを持ってきて頂くように声掛けしている。仏壇をもって来られている方もおり、基本的には、どんなものも持ち込んでいただいてもよいとしている。居室にお孫さんの写真を飾るなど工夫している。	コロナ及びインフルエンザへの感染防止の観点から、居室の見学を自粛した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造になっており一人でも安心して生活ができるように配慮されている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100588		
法人名	社会福祉法人 明翠会		
事業所名	グループホームなのはな苑ねむのき		
所在地	岡崎市合歓木町字上郷間337-1		
自己評価作成日	令和6年2月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyvoCd=2392100588-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和6年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護方針「一期一会を大切に」をもとに7点に重点をおき一人ひとりに合わせた個別ケア(その人らしい暮らし)が実現できるよう支援させて頂いている。1.入居者様とご家族様、職員の出会いを大切にする 2.「過去」でもなく「未来」でもなく「今」を大切に生きる 3.当たり前にある感情にありのままに向き合い「心」に寄り添う 4.安心して暮らし“喜”“楽”あふれる温かな場所作りを提供する 5.日常生活では小さな幸せを、四季折々の行事や外出企画で大きな幸せを感じていただく 6.楽しいことや嬉しいことは何倍にも、悲しいこと心配ごとは半分に 7.一度きりの人生をその人らしく生きていただく
木造平屋建てで、木の温もりを感じながら生活する中で筋書きのないドラマが日々生まれています。施設内での生活に限らず、地域社会の一員として、地域の方々との交流を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示すると共に、ユニット会議やスタッフ会議等では理念に基づいたケアを実施するように検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になり、地域との関りが希薄になっている。 風除室に写真を掲示し、来苑者に施設の様子が伝わるようにしている。今年度は駐車場で地域の獅子舞いとの交流あり。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	むつみ地域包括支援センターに相談に来られた方で認知症の家族を抱えている方に対して施設見学や相談を行っている。 運営推進会議にて利用状況などの説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議が開催出来ていなかったが、4月から対面とオンラインを活用し開催することが出来た。行事の写真や事故・ヒヤリハットの報告に写真を添付し、状況が分かるように工夫をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば、その都度電話連絡もしくは市役所に出向いて確認、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人のリスクマネジメント委員会で検討検討や勉強会を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「権利擁護・身体拘束・虐待」についてウェブ研修は施設内研修を実施している。 新聞記事等で虐待や身体拘束、権利擁護の記事を見かけると申し送りノートの掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護・身体拘束・虐待」についてウェブ研修は施設内研修を実施している。新聞記事等で虐待や身体拘束、権利擁護の記事を見かけると申し送りノートの掲示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書を一項目ごて丁寧に説明させて頂き、入居されてからもその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様の意見が反映できるように、入居者様からは生活支援の中で意向を確認し、ご家族様からは来苑時に確認している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からのコミュニケーションに加え、個別面接において意見を伺うように心がけている。また、会議では意見・提案がしやすい環境作りに努めている。職員満足度調査を実施し意見を反映している。※資料あり		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個々のモチベーションが高くもって働けるよう職場環境づくりに努めている。定期的にリフレクション面接を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は事業所単位ではなく、法人全体の研修プログラムを作成、実施している。2023年10月からは外部研修してもらい、職員教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡崎市のグループホーム小部会に入会し情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接時に可能な限り多くの情報を頂き、ご本人様の不安や要望を明確にするようにしている。謙虚な姿勢で接し、安心してお話し頂ける雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること不安に思っていることを話して頂けるような雰囲気作りに心がけている。また、会話の中で共通事項(出身地・趣味・嗜好)を見つけ身近に感じて頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺う中で優先順位を整理し、今必要だと思うサービスを見極めるようにしている。 施設で賅えない部分は他のサービスを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の立場に立って考え行動し、入居者様と職員が良好な関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が施設に足を運んで頂ける環境を整え、面会時にはその都度施設の様子を伝えてご家族様の意見を伺うようにしている。ご家族様と施設が同じ方向を向いてケアが実施できるように常にコミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限を余儀されているが、ロビーでの面会の実施と、2023年10月からはフロア内での入室が許可された。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格等を把握し、食事席やレクリエーション活動時の配置席などを孤立せず良好な関係が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方においても、必要に応じて支援を行っている。 退院後の相談など。 退去後、ご逝去されたとの連絡をくれる家族が多く、繋がりを感じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で各担当職員を中心に本人様の意見を傾聴し、把握に努めている。 月1回のカンファレンスを行い、情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から聞き取りを行い、今まで過ごしてきた環境や思いを把握するように努めている。入居時に馴染みの持って来てもらうように依頼し、仏壇を持って来ている方もいらっしゃる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定をはじめ、食事・入浴・排泄状況等、心身状態の把握を行っている。 変化時、タブレットで写真を共有するなどしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書作成にあたって、ご本人様・ご家族様・施設職員の意見を踏まえ、半年に1度介護計画の見直しを行い、ご本人様・ご家族様にとって満足のできる介護計画書となるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあればケース記録や申し送りノート、利用者ノートを活用し情報共有しケアの実践・改善に努めている。 タブレットで写真を撮り情報共有することもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまった対応ではなく、その時々において最善の策を検討し、臨機応変に対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の活用が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様個々にかかりつけ医があり、基本的にご家族様が受診対応を行っている。受診の際、施設の様子が分かるように情報提供している。必要に応じて管理者と一緒に同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護・看護が連携を密にとり入居者様が安心して生活ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、ご家族様とも定期的に連絡を取っている。 退院の目途ができてきたら病院と連携を取りスムーズな対応ができるようにしている。病院によっては先生との話し合いに同席させてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の施設での対応について説明すると共に体調不良にはその都度話し合いを行う。 また、希望があれば特別養護老人ホームへの申し込み相談や説明を行っている。 実際に移動された方もいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、統一した対応ができるように研修を行っている。 急変や事故発生時は必ず家族に報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。 119番の通報訓練を複数回実施し、経験を詰めるようにした。 年2回、設備機器の業者を招いて機器説明も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持ち、その方の性格等も考慮し、誇りやプライバシーを損ねないように個々に応じた声掛けと対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりに声掛けを行い、傾聴し本人様の意思を尊重出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の思いや希望を大切にし、無理強いをせず、なるべく希望に添えるように心がけている。 食事提供も睡眠状況に合わせて遅らせて提供することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴等で衣類を準備する際はご自分で準備して頂けるように支援している。個々で化粧水を使われている方もいる。散髪は1ヶ月に2回、訪問理美容を実施。今年度はカラーリングもされた方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍になる前は定期的買い物に出かけ、食事の準備から配膳、下膳と出来ることは一緒に行っていた。 現在はイベント食やおやつ作り等に力を入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて食事量・水分量を把握し支援している。 10時と15時のお茶の時間には好きな飲み物を伺い提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアが実施できるように声掛けを行い、支援が必要な方には介助している。 訪問歯科を利用し、定期的にメンテナンスされている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い、トイレ誘導を実施している。排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	嗜好を確認し、できるだけ多くの水分摂取を取って頂くようにしている。また、ご家族様に協力して頂き、ヨーグルトなどを食べてもらっている。体操や運動への参加を促し、腹部マッサージ等も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今までは午後浴のみであったが、職員体制を整備し、午前浴も開始した。身体状況において別日に変更するなど臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室対応になっており、自分の好きな時間に休んで頂くようにしている。日中の活動を充実させ、昼夜逆転が無く、夜間にしっかり寝て頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は事務所で管理し、薬のセットは看護師が実施。お薬手帳や薬情で確認できるようにしている。服薬時はスタッフ2名で確認し、確実に服用して頂くようにしている。症状の変化を観察し記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等を把握し、日常生活の中で役割を持ちながら生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2023年6月には三ヶ根山スカイラインへ紫陽花ドライブへ出かけることが出来た。 2024年1月には初詣に出かけることが出来た。 天気がいい日は施設周辺を散歩している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様・ご家族様が希望された場合は居室にて現金を所持したり事務所で預かりしている。 自動販売機でジュースを買われる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から電話をかけたいと希望があった場合は施設の電話機をお貸ししている。手紙についても希望があれば対応する。年賀状を書いてご家族様に送っています。リモート面会も実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感が出るように季節花を飾ったり作品を作り掲示している。 毎日掃除を行い不快に感じないように清潔保持に努め、気持ちしが和らぐような雰囲気作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日の当たる場所に椅子を持って日向ぼっこしたり、ソファーに座りゆっくりTVを見たり、ユニット間の移動も自由にしており、個々の意思を尊重している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れたものを持ってきて頂くように声掛けしている。仏壇をもって来られている方もおり、基本的には、どんなものも持ち込んでいただいてもよいとしている。居室にお孫さんの写真を飾るなど工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造になっており一人でも安心して生活ができるように配慮されている。		